

# 日さく、70歳に定年延長

## 若手・中堅社員に技術伝承

【さいたま】日さく（さいたま市大宮区、若林直樹社長）は、4月に定年を65歳から70歳に延長し、継続雇用制度の上限も75歳に引き上げた。人口減少や少子高齢化による従業員不足に対応するほか、高い技術力を持ち

現場経験も豊富なシニア社員の確保により、若手・中堅社員への技術伝承を図る。

若林社長は「同一労働同一賃金の原則を尊重した。65歳から70歳の従業員のモチベーション向上につなげたい」と強調する。継続

雇用制度は上限を70歳から75歳に引き上げた。満70歳以上の継続雇用は、会社から継続勤務の要望があり、本人も希望する場合に適用される。

日さくは地下水をくみ上げるための井戸を掘削する「さく井工

事」などを手がける。井戸の耐用年数は一般的に20~30年だが、同社の強みは高い技術に裏打ちされた施工品質によって長寿命化を図ることだ。ベテラン技術者による掘削技術がそれを支えている。

今回の制度改定で人手不足に対応しながら、シニア社員が若手・中堅への技能伝承を実施し、持続成長につなげる。